



ピースボート
第10回 ヒバクシャ地球一周 証言の航海
10th Global Voyage for a Nuclear-Free World



プロジェクトの趣旨

市民の力で核兵器を禁止する 一過ちをくり返さないために

核兵器の非人道性に関する国際世論を受け、核兵器禁止条約の交渉会議が今年3月から国連で始まります。ヒロシマ・ナガサキの声が、世界のルールとして実を結ぼうとしているのです。

しかし情勢は予断を許しません。被爆者の平均年齢は80歳をこえ、原爆や戦争の記憶は薄れています。核の拡散はすすみ、紛争と暴力の連鎖は留まることをしらず、国際協調よりも自国中心主義の風潮が巻き起こっています。第二次世界大戦の苦難を知る人がいなくなる中で、戦争や軍事化を肯定する危うい動きも見られます。

ピースボートが過去170名の被爆者の方々と行ってきた「証言の航海」は、ついに第10回を迎えます。4月に出航する航海に参加する被爆者、被爆二世や継承者、若い世代の方々を募集します。核兵器を二度と使わせない世界を作るために、力を発揮する意欲ある方々のご応募をお待ちしています。

2017年1月
国際交流NGO ピースボート



募集の概要

地球一周の船旅の中で、被爆体験の証言等を通じて核兵器の惨禍の実相を広く世界に伝え、次世代に継承すると共に、核なき世界の実現を呼びかけていく以下の方々を募集します。

■被爆者(約5名)

ご自分の被爆体験を語り、他のプロジェクト参加者と協力して、被爆の実相を日本と世界の人びとに伝えていくことができる方。

【同行者について】参加被爆者と旅を共にしつつ船上での生活面のサポートをできるお孫さん(被爆三世)や配偶者など「同行者」を歓迎します。(同行者には参加にあたり「同行者料金」が適用されます。詳しくは別途お問い合わせください。)

■被爆二世および継承者(若干名)

被爆体験や記憶はないが、親からの聞き取りや一定の研修を経て伝承、継承する知識と経験を有する方。年齢は問いません。「継承者」は被爆二世である必要はありません。

■ユース特使(若干名)

地球一周の寄港地および船内で、参加被爆者らと協力し、核と平和の問題への関心を高めるために次のいずれかの活動に従事できる30歳以下の方。

(A)レポーターとして本プロジェクトを対外的に発信する活動

(B)イベントを企画し実施する活動

- 詳しくは、それぞれの募集要項をご覧ください。
- 寄港地プログラムにかかる実費(約20万円)、ビザ、保険その他諸経費は自己負担となります。
- 乗船前に行われるオリエンテーションや、下船後の報告会などにも参加していただきます。
- プロジェクト参加者は、一定の研修を経た上で「非核特使」あるいは「ユース非核特使」の申請を、それぞれ日本政府に行うものとします。

応募締切:2017年2月20日(月)必着 / 発表時期:2017年3月初旬

船旅の概要

クルーズ 第94回ピースボート 地球一周の船旅

期 間 2017年4月12日(水)～7月25日(火) (横浜発着105日間)

寄 港 地 22カ国23寄港地

シンガポール/タイ(プーケット)/スリランカ(コロンボ)/ギリシャ(ピレウス)/イタリア(サルデーニャ島カリアリ)/スペイン(バレンシア)/ポルトガル(ポルト)/フランス(ル・アーブル)/フランス(ルーアン)/デンマーク(コペンハーゲン)/ラトビア(リガ)/ロシア(サンクトペテルブルグ)/フィンランド(ヘルシンキ)/エストニア(タリン)/スウェーデン(ストックホルム)/ノルウェー(ベルゲン)/アイスランド(レイキャビク)/バミューダ諸島(ハミルトン)/ベネズエラ(ラグアイラ)/パナマ(クリストバル)/ニカラグア(コリント)/エルサルバドル(アカフトラ)/ハワイ(ホノルル)



旅行企画・実施 株式会社ジャパングレイス
〒169-0075 新宿区高田馬場1-32-13 マリンビル2F Tel 03(5287)3081 Fax 03(5287)3083
観光庁長官登録旅行業第617号 (社) 日本旅行業協会正会員 <http://www.japangrace.com>

寄港地や訪問先での活動(一例)

■核兵器禁止条約を実現するために

- 寄港する各地で被爆証言を行いながら、核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) や平和首長会議と協力して、核兵器禁止条約交渉に多くの国々が参加し積極的に貢献することを求めます。
- 活動予定国 (詳細は調整中)
核保有国 フランス、ロシア、米国 (ハワイ)
非核保有国 ギリシャ、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、アイスランド、エストニア ほか
- 核兵器禁止条約の交渉は、3月27～31日と、6月15日～7月7日の二会期にわたって行われます。4月に出航する本航海の中では、なるべく多くの国々が6～7月の第二会期に参加するよう働きかけていきます。

■原子力に頼らない社会をめざして

- ヨーロッパを中心に、原発からの脱却や自然エネルギーの促進について世界の取り組みを学びます。広島・長崎そして福島の実験や教訓について伝えていきます。

船内での活動(一例)

証言の集い、原爆写真ポスター展、戦争体験を考えるイベント、ワークショップ。世界の核問題を学ぶ企画、乗船する各国の学生との交流・意見交換会などを通じて現在の核問題について考えます。また世界の戦争や暴力、貧困問題などに触れ、今日の日本と比較しながら、自分たちにできることを考えます。世代や国境をこえて人々の関心を高めるための表現方法を工夫します。

※ユース特使には、こうした船内イベントを企画したり、レポーターとして発信したりすることを期待しています。

これまでに船旅に参加した被爆者とユースからのメッセージ



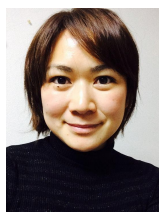
服部道子さん(広島被爆、当時16歳)

私は85歳にして初めてパスポートを取得し証言の航海に参加しました。世界各地で「被爆者と出会って初めて写真や文献では決して理解しえない原爆の威力、被害の実相を知ることが出来た」と言っていたき、あらためて活動の意義を感じました。共に旅する若者たちが新しい感覚で継承に取り組んでいる様子も頼もしいです。今、勇気をもって一緒に声をあげていきましょう！



三宅信雄さん(広島被爆、当時16歳)

私たちの被爆体験は70年前のことですが、核問題は正に今の課題です。被爆者がだんだん亡くなっていく中で、核兵器の非人道性を後世の人に共有してもらうことは急務です。そのために、一つの船の中で寝食を共にしながらのピースボートの旅はまたとない機会です。若い人たちは私たちの話を真剣に受け止め、核兵器の廃絶に向けて一緒になって行動してくれることと信じます。



浜田あゆみさん(高知出身、役者)

私は役者という立場を活かして、被爆者の証言や原爆の被害の実相のほかに、現代に繋がる問題や若者が抱える問題をテーマにして多様な演劇を制作しました。世界をどのように自分たちの望む世界に変えていけるのか真剣に考え、実行することが出来ました。これは、私たちユースの特権であり、最高にやりがいを感じるこの出来る活動です。



ピースボート



〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1

Tel 03(3363)7561 Fax 03(3363)7562

<http://www.peaceboat.org/projects/hibakusha>

<http://ameblo.jp/hibakushaglobal>